

フジカラー 160 NS

FUJICOLOR 160 NS

(短露光用)

1. 特長及び用途

フジカラー 160 NS は、ポートレート撮影用としてプロフェッショナル向けに設計された ISO 160/23° の、デーライトタイプの短露光用カラーネガティブフィルムで 1/8 秒以上の高速シャッターを使う場合の撮影に適しています。

晴天太陽光（デーライト）およびデーライトタイプの光源による撮影には、原則としてフィルターを使う必要はありません。

このフィルムはフジカラープロフェッショナルペーパー SUPER FA-P にプリントすることにより、最高品質のカラープリントが得られます。

- ポートレートに適した、なめらかできめ細かい肌色再現。
- ハイライトからシャドーまで、豊富なグラデーションと整ったグレーバランス。
- より忠実で自然な色再現。
- クリヤーで深みのある仕上りを達成した優れた粒状性とシャープネス。
- 相反則特性も一段と向上。
長露光でもバランスのくずれが少なく、撮影領域を拡大。
- 処理済みフィルムの色画像安定性が飛躍的に向上。

2. フィルムサイズ/乳剤番号/ベース材質

	サイズ	乳剤番号
ロール	135 36 枚撮り	# 401~ # 499
	120 6 枚撮り (6×6)	
	120 12 枚撮り (6×6)	
	220 24 枚撮り (6×6)	
	60 mm×15.3M	
シート	大名刺 20 枚入り	# 401~ # 499
	4×5 10 枚入り	
	50 枚入り	
	8×10 10 枚入り	
	QL4×5 20 枚入り	

ベース材質

- ロール …………… トリアセテート
- シート …………… ポリエステル

3. 写真感度

デーライト、ストロボ ISO 160/23°

デーライト下での一般的な撮影の場合は、原則として 1/8 秒または、それ以上の高速シャッターを使用してください。

4. 長時間露光時の露光補正

1/4 秒以上の低速シャッターを使用して撮影する場合は、下記の露光補正表を参考にして露光量を補正してください。

シャッター速度(秒)	1/4 ~ 1	2
露光補正值(絞り)	補正不要	1/2 絞り開ける

2 秒より低速のシャッターの使用はお勧めできません。

5. 露光ガイド

撮影には露出計の使用をお勧めしますが、使用しない場合は次表を参考にしてください。

昼間・屋外 (シャッター速度 1/125 秒の時)

天候	快晴の砂浜・雪景色	快晴	晴れ	明るい曇	曇, 日陰
絞り	f/22 ⅔	f/16 ⅔	f/11 ⅔	f/8 ⅔	f/5.6 ⅔

- 注**
- 上の表は日の出 2 時間後から、日没 2 時間前までに適用されます。
 - 曇, 日陰などでは明暗の状態が大幅に変わるため、露出計の使用をお勧めします。
 - 逆光での近接撮影の場合は、通常レンズ絞りを 1 絞りないし 2 絞り開けます。

6. 各種光源での撮影方法

各種光源で撮影するとき、特殊な場合を除いて被写体の照明比を 1:2 ~ 1:4 の範囲内に設定することをお勧めします。

デーライト (昼光)

昼光下での撮影の場合、一般的にはフィルターは不要です。但し、次のような状況下での撮影には次表に示すフィルターの使用をお勧めします。

被写体の状況	フィルター
晴天時の日陰、日陰の多い風景	SC-39*
快晴の遠景、雪景色、海浜、航空機から見下ろした地上など、広範囲な風景	SC-40 M*

*富士シャープカットフィルター（紫外線吸収用）

光源の色温度が高、低いいずれかに偏っている場合は次表を参考にして色温度補正を行ってください。

被写体の状況	フィルター
色温度が高い場合 曇り日の風景・人物、快晴の日の日陰	LBA-2*
色温度が低い場合 朝、夕の太陽に照らされた風景や人物	LBB-2*

*富士色温度変換用フィルター

注 屋外撮影または室内で太陽の影響を受ける場合の撮影で、人工光源を主光源または補助光源として併用する場合は、ブルーフラッシュバルブかストロボを使用することをお勧めします。

ストロボ

- ストロボ撮影の場合、一般的にはフィルターは不要です。ストロボは、その有効光量やカラーバランスがメーカーによって異なり、また使用時間などによっても変化するため、あらかじめテスト撮影によって確認してください。
- 1/60秒より低速のシャッター速度を使用すると、ストロボ以外の光（例えばモデリングランプ、室内灯など）の影響を受けて、良い仕上がりを得られない場合があります。事前にテスト撮影により、仕上りを確認してください。
- ストロボ撮影のときの絞りは、下記の式により算出される値にあわせてください。

$$\text{絞り} = \frac{\text{ISO 160/23}^\circ \text{の時のストロボのガイドナンバー}}{\text{ストロボから被写体までの距離 (m)}}$$

- オートストロボを使用する場合は、フィルムの写真感度をISO 160/23°にセットして使用してください。
- ストロボ撮影の場合は、被写体の周囲の反射などによって露光量が変わることがあるため、使用するストロボの使用説明書に従ってください。

フラッシュバルブ

ブルーフラッシュバルブ撮影の場合はフィルターは必要ですが、クリアーフラッシュバルブ撮影の場合は富士フィルターLBB-8*を使用し、1絞り開けて撮影してください。

バルブの光質はメーカーやバルブの種類により異なるこ

とがあり、光量は照明器具や採光方法によって差が生じるため、あらかじめ使用する器具で確認してください。

*富士色温度変換用フィルター

フォトリフレクターランプ（昼光色写真電球）

昼光色写真電球は他の人工光源に比べ露光不足になりやすい光源であるため、露出計で得られた露光条件よりも、露光を多少増量しなければならない場合があります。また、使用する電球は同一メーカーのものでも、点灯電圧や使用時間によって光量やカラーバランスが変化するため、あらかじめ使用する器具で露光条件を確認ください。

タングステンランプ

タングステンランプを使用して、撮影する場合は、富士フィルターLBB-12*を使用し、1絞りと2/3開けて撮影してください。

*富士色温度変換用フィルター

写真撮影用蛍光灯

写真撮影用蛍光灯による撮影にはシャッター速度を1/30～1秒の範囲で使用してください。

7. 照明用具

照明光源の光量を調節したり、光を拡散させる目的で用いられる反射がさ、リフレクター、ディフューザーなどは、その材質および反射面が変質していないことや、光源の色質を変えないものであることをあらかじめ確認してください。

8. フィルムの取扱い

- 未処理の生フィルムは全暗黒下で取り扱ってください。セーフライトは使用できません。
- フィルム外箱にある有効期限内に撮影・現像処理を必ず完了してください。
- ロールフィルムのカメラへの装填・取り出しは直射日光を避けて、すばやくおこなってください。周囲に日陰がない場合には、太陽に背を向け、自分の影の内でおこなってください。
- フィルムをカメラに装填したら、できるだけ短期間に撮影を完了し、速やかに現像処理をしてください。
- 空港の手荷物検査時に使用されるX線が強いほど、照射累積回数が多いほど、またフィルム感度が高いほど、その影響（カブリの発生）は大きくあらわれます。従って、その都度、荷物からフィルムを取り出し、フィルムにX線をあてないように空港の係官に申し出て、手検査を受けることをお勧めします。

- 病院、工場、研究所などの放射線を取り扱う場所でも、フィルムはかぶるおそれがあります。

9. フィルムの保存

現像処理前

- 現像処理前（未露光・露光済）のフィルムは温度、湿度が高いほど写真性能に悪影響を受けやすくなります。現像処理前のフィルムは次の条件で保存することをお勧めします。

保存場所・温度：
 ○ 冷蔵庫（温度 10℃以下）
 ○ 特に長期に渡る場合
 冷蔵庫（温度 0℃以下）

- 新材や新しい家具は塗料や接着剤から、フィルムに対して有害なガスを発生するおそれがあります。このような場所にはフィルムあるいはフィルムを装填したカメラやホルダーを収納しないようにしてください。
- 冷蔵保存及び冷凍保存されたフィルムを使用するときは室温に戻して（1～2時間以上待つ）から開封してください。
 温度が低いうちに開封すると結露して、フィルムが使えるなくなるおそれがあります。

現像処理後

- 現像処理後のフィルムは、光、熱、湿気によって画像の変退色が発生します。

これらの悪影響を避け、画像を長期間安定に保つためには、ネガシートやビニール袋に入れ、なるべく暗く、通気性の良い次のような条件で保存することをお勧めします。

推奨温湿度：
 ○ 温度 25℃以下、相対湿度 30～60%範囲
 ○ 長期保存を必要とする場合
 温度 10℃以下、相対湿度 30～50%範囲

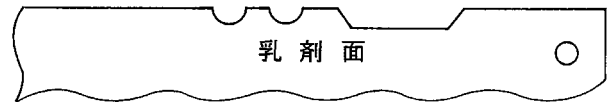
注 このカラーフィルムの色素は、他の色素と同様に年月の経過により変化します。

10. 現像処理

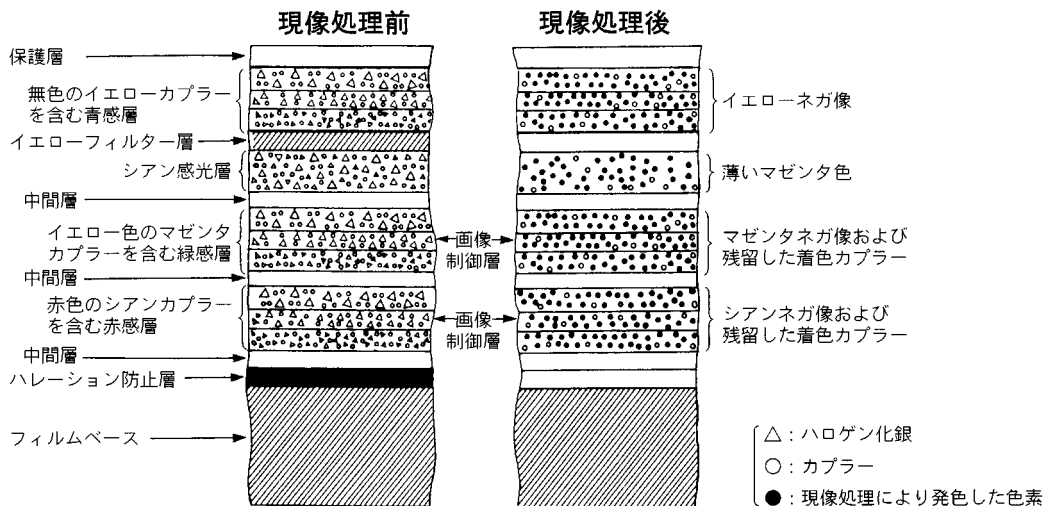
このフィルムは当社指定の CN-16 処理で現像処理されます。また C-41 および同等の処理にても現像することができます。

11. シートフィルムのコードノッチ

図のように、コードノッチが右上すみになるようにして持つと感光面（乳剤面）が手前になります。



12. 層構成



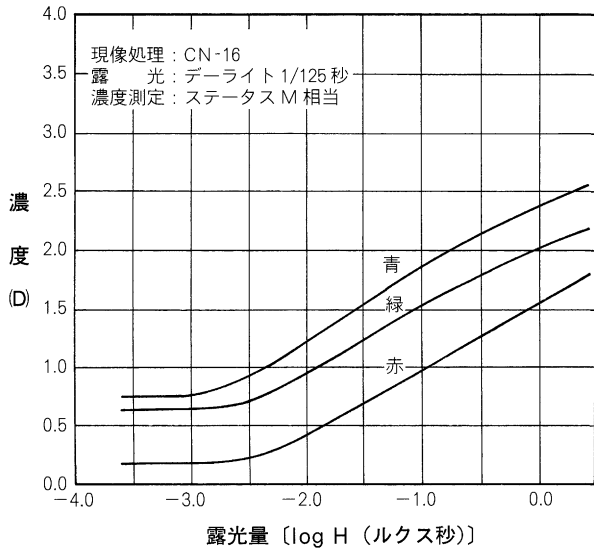
13. 拡散 RMS 粒状度 …… 4

マイクロ濃度計の測定アパーチャー：48 μmφ
 試料の濃度：最小濃度+1.0

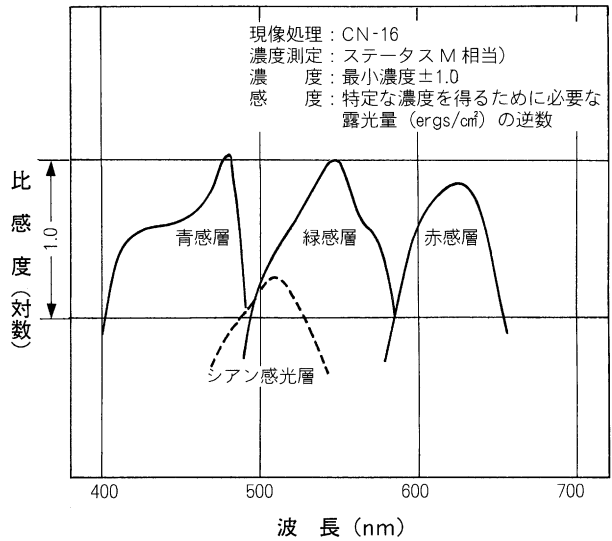
14. 解像力

チャートのコントラスト 1000 : 1 125 本/mm
 チャートのコントラスト 1.6 : 1 63 本/mm

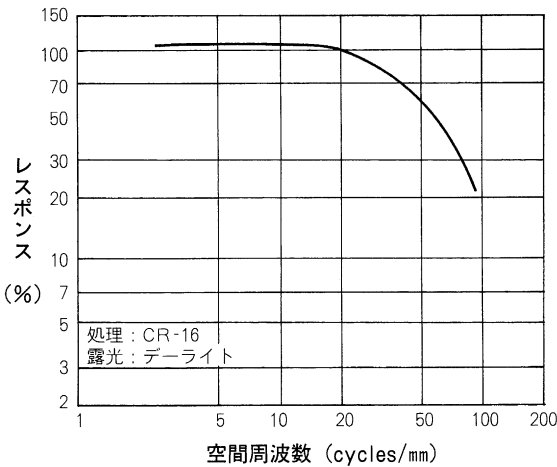
18. 特性曲線



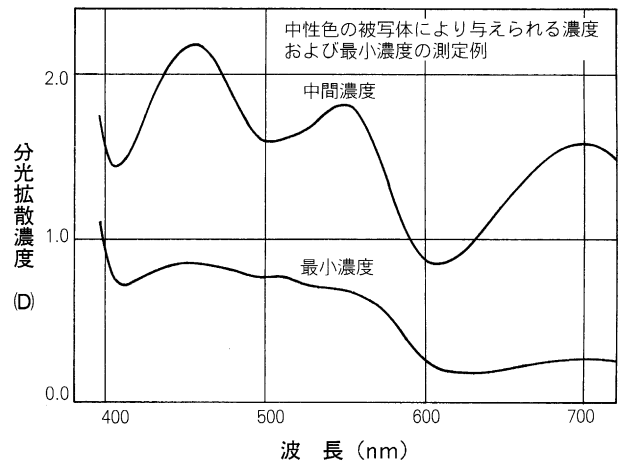
19. 分光感度曲線



20. MTF 曲線



21. 色素の分光濃度曲線



注 このデータシートに記載されているデータ類は、当社で通常実施している試験による結果を表示するものです。当社は製品の性能を常にグレードアップしようとしていますので、製品の改良によって、これらの特性は予告なく変更されることがあります。



富士写真フイルム株式会社

プロフェッショナル写真部

東京本社 / 〒106-8620	東京都港区西麻布2-26-30	TEL 東京 (03) 3406-2094
大阪支社 / 〒541-0051	大阪市中央区備後町3-5-11	TEL 大阪 (06) 205-6470
札幌営業所 / 〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2	TEL 札幌 (011) 241-7164
仙台営業所 / 〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1	TEL 仙台 (022) 265-2121
名古屋営業所 / 〒460-0008	名古屋市中区栄2-10-19	TEL 名古屋 (052) 203-5261
広島営業所 / 〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35	TEL 広島 (082) 256-3311
福岡営業所 / 〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL 福岡 (092) 281-0231